



東地中海地域ニュース

トルコ：最近の国内情勢

(6月1日付現地報道)

1. ブユックアヌト参謀総長の発言（5月31日、「安全保障の新局面と国際組織」シンポジウムにて）
 - (1) トルコの同盟国の中に PKK を支援している国があることは非常に遺憾である。トルコはテロとの闘争において、どの国からも必要な支援を受けることが出来ないでいる。
 - (2) 軍として、越境作戦の必要性に関しては、既に4月12日に国内外に向けて述べたところである。即ち、必要性はあるが、その決定は（軍ではなく）政治が行うべきである。全ての軍事作戦は政治的目的があり、越境作戦により政治的に何を達成するかを決定するのは政府である。北イラクに越境進入し、PKK と戦うのか、バルザーニ（注：イラクのクルド地方政府首相）との間でも何かが起こるのか。更には米国の存在もある。政府はこれらを評価し、意思決定を行い、軍に指令する立場にある。

<参考>

同参謀総長は4月12日の記者会見にて、気候の暖かくなる5月には PKK が攻撃範囲を拡大させるため、トルコ軍は対 PKK 軍事作戦の範囲を北イラクに拡大させる必要があると発言した。

2. 憲法改正パッケージの国会での再可決

- (1) 5月31日、セゼル大統領から国会に差し戻された憲法改正案パッケージが、国会において変更を加えられずに再び可決された。
- (2) 同パッケージには、大統領の直接民選化、大統領任期の変更（現行7年1期限りから1期5年で2期まで再選可能とする）、国会任期の変更（現行5年から4年に短縮）等が含まれている。
- (3) 今後、同改正パッケージはセゼル大統領に改めて送付される。セゼル大統領は、憲法に従い、同改正パッケージを承認するか、国民投票に付すかの判断を15日以内に下すこととなる。

<参考>

同改正パッケージは、5月11日に国会で可決し、セゼル大統領に送付されたが、同大統領が25日に拒否権を発動し、国会に差し戻したものの。